繊維学部・農学部のジョイント講義

岡崎光雄

講義の遺伝子工学（繊維学部応用生物科学科　3年生前期講義　担当岡崎光雄）と動物発生工学(農学部応用生命科学科　3年生　担当辻井弘忠)の遠隔操作によるジョイント講義が始まって，早や10年を越える。農学部にも信州大学情報ネットワークシステム（SUNS）が設置された折，農学部辻井先生より呼びかけがあり，当時両学部で欠けていた講義の補完もでき，各地分散キャンパスでの学生間での交流にもなる事もあり，早速始めることとした。その後両学部に上記の内容の講義が出来たが，専門課程での他学部との交流など学生よりの要望もあり今日に至っている。

今回，遠隔操作講義の補助として学長裁量経費をいただいたのを期に，学部間のジョイント講義について述べてみたい。今までの講義はOHPを主体にして行っていたが，この期に動画も導入できるパソコン，またテレビのトピックス（ニュース，NHKスペシャルなど）なども導入できるノートパソコン（NEC PC98＝NX Series Lavie PC－LT9001D）を購入した。講義はそれなりに学生の理解を深める手段になったが，問題は講義室の設備の老朽化にある。繊維学部の講義は15年程前の信州大学で一番初めにSUNSとして設置された35番教室でおこなっているが，この教室は当時のままで，天井より吊り下げられたテレビ3台一組でずらり並んでいる。2台は講師の姿用と説明資料用，もう1台は講義室の情景用である。しかし，3台の内まともに映るのは1台だけで，その1台もややもすると映り難くなる。現在，いろいろな情報伝送方式が実用化してきており，何を導入するか決めかねている実情も分からないことも無いが，早急に直していただきたい。まずこの様な所に，学長裁量経費を投入していただきたい。遠隔操作講義ではないが，共通教育で松本キャンパスに行き，大講義室（300人用），中講義室(12番，200人用）で講義を行っているが，もう少し明るい液晶プロジェクター（パワーポインター）が設置できないだろうか。せめて学生が教科書を見ながら，ノートを取りながらプロジェクターの映像が見れるように出来ないものだろうか。日進月歩のIT機器の今日，お金と相談の上のこととは思いますが，リースシステムなども考慮に入れて対処をお願いしたいと思います。

話を学部間の間のジョイント講義に戻すと，講義はまず上田と伊那の空模様に始まり，繊維学部キャンパス・農学部キャンパスの木々，花の季節感の紹介がある。伊那は上田より100㎞程南だが，箕輪キャンパスは標高が900m程あり（上田は標高450m），気候的には同じ様な季節感である。ただ天気は上田の方が良さそうである。最近の学生は他学部のキャンパスまで足を伸ばすことは少ないようである。講義で一番大学らしい農学部正門からのユリの木並木道を紹介すると，秋の学部祭にはでかける学生もいるようである。講義が回を重ねるうちに，繊維学部と農学部の学部紹介ビデオなど流すと，学生は目を輝かせて聞き入っている。ある日，繊維学部の講義に見慣れない学生が二人いた。1次限目の授業にもかかわらず

農学部からわざわざ出かけてくれた学生がおり感激した。総合大学でありながら各地分散キャンパスのため，1年生を除き他学部の学生との交流をしないのは残念である。このような学部間ジョイント講義を多くして，総合大学の良さを学生に味合わせたいものである。平成16年度より行われるであろう独立法人化に向けて，県境を越えて統合する大学もあるという。信州大学が良きモデル校になりたいものである。

このような学部間ジョイント講義は，教官間のコミュニケーションにも役立つ。この夏の21世紀COE申請について学生に話していると，農学部の辻井先生があわてて聞き返してきた。残念ながら時間切れで，結果的には申請に間に合わなかったが。

このジョイント講義では，信州大学の共同利用としての遺伝子実験施設のPRもしている。施設の西側に植えたユリの木は，農学部の並木の孫である。毎年の講義でその成長を写真入で紹介している。10年の計で施設の3階が日陰になるのを夢見ながら…。この紙面をお借りして遠隔操作の講義ではないが，施設の機器の遠隔操作について少し述べてみたい。ほとんどの大型機器はパソコンを搭載しており，その機器の操作はパソコンを通じて行い，データーはパソコン上に表示される。したがって資料だけを機器に設置すれば，後は各キャンパスより遠隔操作でリアルタイムで分析できる。そんな実験施設に出来たらと思っている。